

番号	9	平成26年度公共事業事後評価調書			担当課名[ 農地整備課 ]	
事業名	経営体育成基盤整備事業 (地域開発関連型)			事業主体	静岡県	
箇所名	めがづか 女鹿塚			市町名	沼津市	
事業概要						
受益面積	44.4ha	採択年度	平成3年度	完了年度	当初	平成19年度
					実績	平成20年度
事業費	前回	1,419百万円 (H18再評価時)		実績	1,389百万円	
事業量	区画整理 面積25.5ha (農道6,600m、支線用水5,400m、支線排水路3,100m、客土25.5ha) 幹線排水路 延長2,400m (幅1.8~6.8m、高さ1.2m)					
事業の目的・必要性						
<p>本地域は、沼津市の西部に位置し、軟弱地盤地域である浮島沼低湿地帯の中心部である。地下水位が高く、水田としての利用しかできず、地域内の道水路も未整備であった。このため区画整理を実施し、排水路整備・客土により乾田化を図り、営農条件を改善する。</p>						
事業の効果等						
費用対効果 分析結果	前回 再評価時 (H18)	B/C	1.12	総費用 14.2 億円 (事業費: 14.2 億円 再整備費等: — 億円 関連事業費: — 億円)	総便益 15.9 億円 (農業生産向上効果: 7.5 億円 農業経営向上効果: 8.1 億円 生産基盤保全効果: 0.3 億円 地域資産保全・向上効果: 0.1 億円)	基準年 平成17年
	事後	B/C	1.04	総費用 16.2 億円 (事業費: 14.5 億円 再整備費等: 1.7 億円 関連事業費: — 億円)	総便益 16.9 億円 (食料安定供給確保効果: 16.8 億円 農村振興効果: 0.1 億円)	基準年 平成25年
<p>(1) 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地改良事業の費用対効果分析マニュアルの改正による評価期間、便益等分析手法の変更に伴い、総費用、総便益が増加。</li> <li>・地域で現状栽培されている作物の単収・単価に置き換え。</li> </ul>						
(2) 事業効果の発現状況						
事業効果項目		事業効果内容			便益額	
食料の安定供給の確保に関する効果		・作物生産効果 乾田化により、葦原だった大半の農地が水田として使えるようになった。			6.9億円	
		・営農経費節減効果 区画整理による作業時間短縮効果 用水のパイプライン化による水管理労力時間削減効果			9.9億円	
		・維持管理費節減効果 造成された施設(用排水路)の維持管理経費が発生			0.01億円	
農村の振興に関する効果		・地籍確定効果 換地により農地造成区域の地籍が確定			0.1億円	
地域独自の効果		・換地により農用地と非農用地を集約・整理 事業実施前は、農地と非農用地(原野等)が混在していたが、本事業により農地を集約し連担化			—	

## 事業により整備された施設の管理状況

用水施設（揚水機場、パイプライン）は沼津市が財産管理しているが、草刈り等の賦役は水利組合が実施している。  
農道、排水路は、沼津市が管理している。

## 事業実施による環境の変化

## (1) 生産力の強化について

① 換地制度を活用し、混在していた農地と非農用地（原野等）を区分し、農地の集約による連担化を図った。

② ほ場の大区画化、乾田化に伴い、大型農業機械の利用効率が高まり、営農に係る時間が縮小した。  
（区画整理実施区域 H2：975時間/ha/年 → H25：445時間/ha/年）

また、葎が生い茂る耕作放棄地が解消された。

## 社会経済情勢等の変化

## (1) 地域社会の動向

- ・平成17年4月1日に、沼津市・戸田村が合併し、現在の沼津市となった。
- ・沼津市の人口は、平成22年の国勢調査によると約20万人であり、出生率の低下や社会移動人口の減少によって減少傾向に転じている。
- ・就業人口は約10万人であり、人口推移と同様に増加から減少に転じている。産業別の構成比をみると、第2・3次産業で97%を占めており、第1次産業は3%程度（内農業は2.4%）になっている。平成7年以降の経年変化を見ると、第1・2次産業は減少し、第3次産業は増加傾向を示している。
- ・平成22年農林業センサスによると、地域内の集落の農家の構成比は、専業農家 24.7%、第1種兼業農家 29.9%、第2種兼業農家45.4%となっており、3/4が兼業農家となっている。

## (2) 地域経済の動向

- ・平成24年4月に新東名高速道路が開通するとともに、東名高速道路沼津インターチェンジからつながる東駿河湾環状道路の整備も進んでおり、広域道路網が充実してきている。
- ・農産物は、東名高速道路を利用すれば首都圏まで約2時間の距離にあるため、県内だけでなく東京の大消費地へも出荷ができ、交通条件は恵まれている。

## 対応方針（案）

## (1) 評価結果

- ・効果は十分に発現されており、改善措置の必要はない。
- ・区画整理、農道、用排水路等の整備により、乾田化、営農労力の省力化等が図られた結果、さといも、ほうれん草等の畑作物への転換が進みつつあり、沼津市街地や首都圏へ出荷する都市近郊型農業地域に成長している。

## (2) 今後の課題等

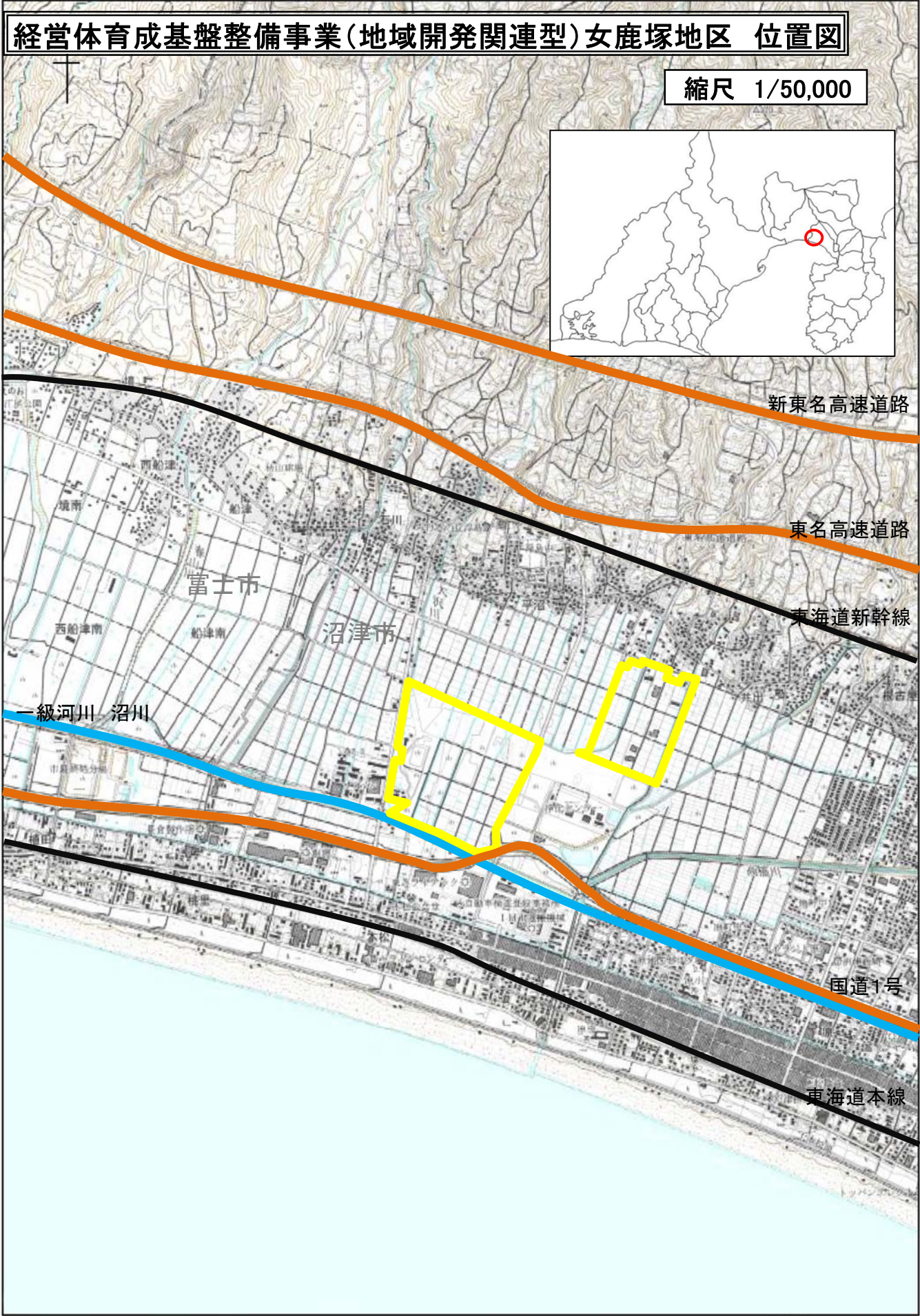
- ・現在、地区内に個々の農家が持つ面積は小規模であるが、今後、担い手へ更なる集積を図っていく。
- ※担い手：将来的に地域の核となる経営体。市町長が認定する認定農業者や農業生産法人をいう。

## (3) 同種事業への反映等

- ・本事業では、産地・地域が求める営農を検討し、必要な整備を実施している。今後、同種工事においても、関係機関等を含め営農について協議し、地域の特色を踏まえつつ効率的な整備を推進していく。

経営体育成基盤整備事業(地域開発関連型)女鹿塚地区 位置図

縮尺 1/50,000



新東名高速道路

東名高速道路

東海道新幹線

一級河川 沼川

富士市

沼津市

国道1号

東海道本線

1.2 km  
1:25,000

**経営体育成基盤整備事業(地域開発関連整備型) 女鹿塚地区 事業効果**



低湿地帯で軟弱地盤地域である浮島沼において、乾田化を図る基盤整備を実施した

**1 排水路整備・客土による乾田化と営農労力削減**

**事業実施前**



葦の生える水田

**事業実施後**

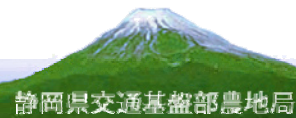


乗用型田植え機により営農労力を削減



区画が整った水田

ふじのくに食の都づくり Land of Fuji, Food Capital of Japan



## 2 揚水機場・パイプライン整備による水管理労力の削減



事業実施後

揚水機場整備により用水を安定供給



事業実施後

給水栓の設置により水管理労力を削減

## 3 換地により農地と非農用地を集約・整理



事業実施前



事業実施後



農地が狭小な短冊状に配置され、非農用地が混在していた



非農用地は西側(大沢川周辺)に集約され、農地は3反区画に整備された

